

平成 28 年 2 月 11 日～2 月 13 日

柴崎研究室博士前期課程の佐藤さんと金子君がインドで開催された  
国際学会 Sixth International Groundwater Conference (IGWC 2015)  
で発表を行いました

3 日間の日程でインドのチェンナイ, SRM University で開催されました。  
27 年 12 月 11 日, 12 日に開催予定でしたが,  
チェンナイの甚大な洪水被害により 2 か月延期されての開催でした。  
そのため, 当初参加予定だった柴崎教授がスケジュールの都合で参加できなくなり  
佐藤さん, 金子君の学生 2 人での参加となりました。

学会 HP はこちらから ★

《佐藤さんからの出張報告です》



会場の SRM University 前にて

アメリカ, イギリス, 中国, オーストラリア, 韓国, 日本, バングラデシュなどから  
研究者や学生が多数参加し, 地下水に関するテーマで発表が行われました。

日本から参加したのは 2 人だけでした。



学会会場の様子

私は「The analysis of groundwater quality and groundwater flow in Minamisouma City, Fukushima, Japan」

金子君は「Possibility of aquifer classification based on groundwater temperature profile in Aizu Basin, Japan」と題した発表を行いました。  
緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。



学会発表証明書を受け取った2人とマイルスオミ教授

平成 27 年 9 月 21 日～25 日

博士前期課程 2 年の金子君がドイツ，ベルリンで開催された

「**FEFLOW 2015 CONFERENCE**」に参加しました

「Groundwater Flow and Heat Transport Simulation using FEFLOW  
with Detailed Facies Analysis in Aizu Basin, Fukushima, Japan.」

と題して福島県会津盆地の地下水流動と地下水温分布についての発表を行いました。

初めての国際学会へ，たった 1 人での参加となりました。

慣れない海外でトラブルもありましたが，無事に発表を終え，帰国することができました。



ブランデンブルク門前にて（ベルリン市内）



学会会場の様子



2014年12月23日～12月31日

柴崎教授, 金子君が Bangladesh で現地調査を行いました

Bangladesh では地下水ヒ素汚染問題が深刻な社会問題になっています。柴崎研究室では, アジア砒素ネットワークや新潟大学・九州大学との共同研究で, 地下水ヒ素汚染機構の解明に取り組んでいます。

今回は応用地質研究会の現地活動に, 院生の金子君とともに参加しました。これからの地下水ヒ素汚染対策を検討するための聞き取り調査や現地視察, データ収集, これまで行った対策の成果確認などを行ってきました。

現地 Jessore では, 柴崎研究室卒業生で, 現在, 青年海外協力隊員として公衆衛生工学局 (DPHE) Jessore 県事務所に派遣されている澤橋さんが案内役を務めてくれました。

Jessore に赴任して1年半となります。

はつらつとした笑顔で Bengali 語を自在にあやつり, 現場を取りまとめ, 頼もしく活躍する姿を見ることができました。



村での聞き取り調査の様子



現地で活躍する澤橋さんとの再会



井戸水のヒ素濃度測定



土取り場での地質調査



小学校に設置された深井戸の視察



村の青年と会話する金子君



アジア砒素ネットワークの援助でつくられた浄水施設とそれを利用する現地の人々